

第343号
 2005年(平成17年)
 10月15日
 発行 明治大学
 編集 明治大学広報部
 TEL 03 (3296) 4083
 E-mail:
 koho@mics.meiji.ac.jp
 東京都千代田区神田駿
 河台1-1 (〒101-8301)
 http://www.meiji.ac.jp/

11月1日(火)~3日(木) *“Enjoy Challenge Oh! Meiji”*

第121回明大祭を開催!!

第121回 明大祭

○私達、明治ですから!

明大生のサークル活動や普段磨いている芸などを発表してもらおう恒例の企画。

○My T Project

明大生をはじめ、美大生、デザイン系専門学生等様々な人がデザインしたTシャツの展示会。

○サラダボウルの主張2005

~僕の故郷を紹介します~

各地方の出身者にお国自慢をしてもらい、東京に来て感じたことをぶつけてもらう企画。

○応援合戦明早戦

応援にスポットを当て、明治、早稲田両校の応援団による応援合戦を行います。

○SHORT FILM FESTIVAL

明大生が自主制作した10分程度の作品を上映し、グランプリを決定。

○明大前商店街抽選会

明大前商店街と明大祭のありそうでなかった異色コラボ。

○音楽ライブ

昨年デビューした独特の雰囲気を持つバンド「フジファブリック」が登場。

○お笑いライブ

バラエティー豊かで個性的な芸人がみなさんを笑いの渦へと巻き込む。

※詳細は実行委員会ホームページ(<http://meidaisai.jp/2005/>)、または学内の明大祭用掲示板で確認してください。



▲▼2004年度明大祭風景



『明大祭』が11月1日(火・創立記念祝日)から3日(木・祝日)に和泉校舎で開催される。今年度は「Enjoy Challenge Oh! Meiji」をテーマに、明大祭実行委員会によって準備が進められ、サークルやゼミによる日頃の活動成果の展示・発表、模擬店など様々なイベントが予定されている。
 (2面関連記事)

「明大祭」に伴う休講のお知らせ (駿河台・和泉校舎)

- 10月31日(月) 準備: 午後休講
- 11月1日(火) 明大祭: 休業 (創立記念祝日)
- 11月2日(水) 明大祭: 全日休講
- 11月3日(木) 明大祭: 休業 (文化の日)
- 11月4日(金) 後片付: 全日休講

点

さきごろ行われた衆院選で小泉自民党が圧勝した。今回の総選挙は、衆議院で可決された郵政民営化法案が参議院で否決されたため、小泉首相が民意を問いたいと衆議院を解散したことによる選挙だった。この衆議院解散は「郵政解散」とも呼ばれたが、今回ほどさまざまなフリーズが飛び交った選挙はなかっただろう。「刺客」「落下傘候補」「郵政反対派議員」云々。一連の選挙報道を見ると、小泉ワンフレーズ・ポリテイクスの影響なのか、政策論争よりもこのようなフリーズばかりが強調された▼選挙が近づくと、報道番組等で頻りに党首討論が行われた。最大野党の民主党が郵政についてははっきりとした見解を示すことができなかったのに対し、自民党の「郵政民営化」一本の主張はわかりやすかった。郵政反対派議員は公認せず、その議員の選挙区に郵政民営化賛成の候補者を立てるなど、これまでの自民党には見られなかった一貫性を感じた。しかし、小泉首相が「年金」や「税制改革」といった問題について、はぐらかすような答弁を繰り返しているうちに、自民党が圧勝したら「郵政民営化」以外の問題はどうかなのだろうと不安にもなった▼投票日ぎりぎりまで、新聞やインターネットなどで情報を集め、家族や友人と意見を交わしたりしながら、いろいろ悩んで投票した。当日の選挙速報も気になった。自民党がこれほど議席を獲得するとは予想しなかったが、はじめて一票の重みを感じる事ができた。何より「おもしろい」選挙だった。

障がいを持つ学生の支援を通して ともに学びませんか？

経営学部がボランティア・センター懇談会を開催

▶ボランティア学生の労いに駆けつけた納谷学長(写真中央)と



去る7月28日、リパティタワーのサロン紫紺において、経営学部ボランティア・センター懇談会が開催された。

この懇談会は、本年4月に経営学部にて聴覚障がい学生が入学したことを契機に、その学生に対する授業での情報保障を主な目的として組織された同センターの活動の一環として行われた。

同センターでは、現在、同学部の1・2年生を中心とした26名のボランティア学生が、聴覚障がい学生の履修科目の授業においてノートテイク(授業内容の要約筆記)を行なっている。このノートテイクの実施に先立ち、同センターでは4月に「ノートテイク・養成講座」を開講したほか、障がい学生との日常のコミュニケーションを図るため、5月からさらに「手話講座」を開講している。

今まで明大では、学部ごとには障がい学生の受入支援を行なっていたが、このように学部を挙げて支援体制を組織するのは初の試みである。

懇談会当日は、大学側から納谷廣美学長を始め、森宮教務担当理事、坂本一部教務部長、柳沢学生部長らが出席し、前期の活動の感想や後期に向けての課題・要望等について、実際に支援活動に参加しているボランティア学生と意見交換が行われた。その中で、現在、学生部で検討されている学部の枠を越えた「全学版ボランティア・センター構想」が示された。

加えて、同日、明大が文部科学省に申請していた、同センターの活動を基礎として、全学的見地からの支援の在り方の検討を目的とした海外先進事例の視察を主な内容とした取組(代表・高橋正泰経営学部教授)が、本年度の「海外GP」(大学教育の国際化推進プログラム「海外先進教育実践支援」)に採択されたとの朗報が入った。

今後はこの取組が、明大が障がい学生にも「個」を強くする大学としての場を提供していくための礎となることを期待したい。

なお、同センターでは、本年度の後期以降もノートテイクなどの支援活動への参加学生を随時募集している。希望者は経営学部事務室(駿河台)又は和泉教務課経営学部(和泉)まで連絡されたい。(経営学部事務室)

「軽い気持ちで応募し、ノートテイクや手話など初めてのことだらけで、驚きの連続でした。でも、彼や大学の方々、センターのみならず、助け合って楽しく活動できています。これからもがんばります」

ノートテイクたちの声

岸 小百合さん(会計学科1年)

「なかなかうまくいかないものどかしさもありますが、仲間と過ごす時間は宝物！ノートテイク、手話、拡がる友達の輪、予想もしていなかった大学生活。新しいことへの挑戦の機会を与えてくれた彼と大学に感謝しています」

西田衣里子さん(公共経営学科1年) 「最初の頃は慣れないノートテイクで緊張していましたが、今はパソコンを使うなどして楽しみながらやらせてもらっています。また、ノートテイク・養成講座や手話講習会は自分のためにもなり、参加してよかったと思います」

長浜 円香さん(公共経営学科2年) 「少しでも彼の力にと始めたノートテイクでしたが、先生のおっしゃったことをすべて伝えることは予想以上に難しいものでした。講習会などに参加し、聞き漏らしがなく、伝わりやすいノートテイクができるよう精進していきたいと思っています」



「Enjoy Challenge Oh! Meiji」

第121回明大祭実行委員会 委員長 三田 葵

明大祭も今年で数えること121回となりました。その数字に歴史と諸先輩方の熱い想いを感じています。

明大祭は、有連帯を始めとする学生団体、ゼミナール、個人で活動に励む学生など、様々な明大生が同じ舞台で日頃の活動の成果を発表する唯一の場です。そして、この明大祭が明大生同士の絆をより一層深め、その情熱やパワーを余すことなく発揮できる場になるよう準備を進めています。

また、明治大学が広く一般に開放される機会でもあります。受験生にはオープンキャンパスとして、OB・OGには昔を懐かしむ場所・帰ってくる場所として、明大生のご両親には授業参観のように明治大学の様子を見学する機会として、足を運んでいただきたいと思ひます。さらに、その他関係者、地域住民の皆様にも一人でも多く明大祭に足を運んでいただきたいと思ひます。本年度、我々実行委員会は、「地域との共存・コミュニティ」

を今まで以上に重視しています。学内関係者のみならず、明大祭開催にあたり、多大なるご協力をいただいている明大前商店街の皆様をはじめとして、地域との交流を以前にも増して行なっています。

さらに環境問題にも着目し、模擬店で使用する容器は、他大学と共同で土に還元できるリサイクル容器を購入したり、地球のことを考えた企画等の取り組みを行なっています。明大祭期間中には、ゴミの分別を強化しますので、みなさんのご協力をよろしくお願い致します。

本年度のテーマは「Enjoy Challenge Oh! Meiji」。明大祭復活3年目ということで、足りない所、拙い所も多々あると思ひますが、我々実行委員会一丸となって明大祭、そして明治大学を盛り上げるために一所懸命活動してまいります。今後ともみなさんのご協力とご支援をよろしくお願い致します。(法学部4年)



西谷尚徳 (にしたに・ひさのり)

04年の東京六大学野球春季リーグ戦で主将として12季ぶりの優勝に貢献。大学通算3割3厘、3本塁打、27打点、ベストナイン3回。04年ドラフト4位で東北楽天ゴールデンイーグルスに入団。内野手。178cm・77kg。右投左打。05年文学部卒。

プロ野球

プロ1年目のシーズンが終了



本拠地最終戦でヒーローインタビューを受ける

プロ1年目のシーズンが終了しました。シーズン当初は体調が思わしくなく、夏場になってようやく二軍の試合に出場できるようになりました。初打席は「やっと打席に立てる」ということですごく嬉しかったです。プロのピッチャーとアマチュアのピッチャーの違いは、やはりコントロールと変化球のキレ。そして、何よりプロはすべてのプレーのスピード感が違うと感じました。体力的にはまだまだ足りない部分があるので、強化していかないといいませんが、技術的には今まで積み重ねてきたことが間違っていないことを実感することができました。一軍の舞台で活躍するためには、実践経験をたくさん積んで、バッティングも守備も安定感を出していかなければいけないと感じています。

プロ野球選手になって自分が夢に描いていた世界に実際に身をおいてみると、プロは結果が求められる分、常に大きなプレッシャーを感じています。いい意味で要領よく練習を積んでいかないとついていけない世界です。秋季キャンプでは来季の「一軍昇格を目指して、みっちり練習したい」と思います。

Rookie's Report ルーキー・レポート④

9月11日に生放送した「乱！総選挙2005」のスタジオ



報道

責任の重さ



岩波孝祥 (いわなみ・たかよし)

高校生時に「飢餓人口8億以上」という新聞記事を読み、国際協力に携わる仕事を志す。大学入学後、「世の中の関心を貧困問題に向かわせたい」とマスコミへの就職を決意、TBSテレビに報道職として入社。マスコミ研究室29期生。05年農学部卒。

「テレビの報道は新聞と違い、映像という強い武器があるので、原稿にはさほど力を入れていないんじゃないか。恥ずかしいですが、これが入社前、私がテレビニュースに抱いていた印象です。しかしそんなことは大間違いでした。テレビニュースは、一つ一つの言葉とことん真摯に向き合い、妥協せずに報道しています。例えば、しばらく前、警察から「変死体の発見」という広報文が届いたときのこと。警察に電話取材をして、次のようなことが分かりました。「一人暮らしの老女が自宅のリビングで仰向けになって倒れていた。部屋は荒らされていないが、首には切り傷があつて血を流していた。おそらく他殺だろうけど、きちんとしたことはもっと調べてから」。これをもとに、原稿を書くことになった私は「警察は殺人事件の可能性もあると見て捜査しています」と書きました。すると、デスクにはこう返されました。「この状況で、殺人以外

にどんな可能性があるんだ」。沈黙する私。原稿はすぐに改稿され「警察は殺人事件として捜査しています」となりました。デスクからその後、「もっと自分の書いた言葉に責任を持って」と指摘されました。余談ですが、つい口癖で言ってしまう「ちょっと」や「とりあえず」といった言葉も厳しく注意されます。現場から「とりあえず原稿を書いて社に送りました」なんていう連絡を入れると、「とりあえず書いたもの」なんて送ってくるな」といった具合に。ストレートニュースの場合、一項目の時間は60秒ほど。新聞記事のようにじっくり読み込むことができない分、一度の読み上げでいかに分かりやすく、事実を伝えるかが大切です。言葉の並べ方、言い回し、一つ一つに細かいチェックが入ります。そのためには、一切の妥協をしません。社会人として、報道人としての責任の重さを痛感しているところです。

相談室の窓から

小林 信行
(相談員・経営学部教授)

学生室相談員になってはや半年。1ヶ月のミュンヘン滞在もほぼ終わりにさしかかり、ただ今この原稿をミュンヘンで書いています。ミュンヘンは目下来年のサッカー・ワールドカップ開催を控えて建設ラッシュ。白亜の大サッカー場も九分どおり完成し、来年は明大の学生さんの多くもミュンヘンを訪れることでしょう。

住み心地の良い区域です。こちらに来てまず気づいたことは、ドイツでも大学間競争が激しさを増していること。『FOCUS』の最新号の特集はドイツの大学ランキング。それによるとミュンヘン工大がトップで、僅差でミュンヘン(総合)大学が続きます。第二の大規模大学です。ミュンヘン大学に本学の「学生相談室」に

「ミュンヘン・シュヴァーピングより」

シュヴァーピングと呼ばれる区域にあります。ここには、ピナコテーク(絵画館)に隣接して工科大学と音楽大学が、旧市街に直結するルートヴィヒ大通りに面して堂々たる威容を誇る総合大学が、そしてその隣にバイエルン芸術アカデミーなどが林立し、学問と芸術と実生活のバランスが程よくとれた

り合いのミュンヘン大学の学生に水を向けても、我関せずの様子。というところは、大学間競争のストレスに悩むのは、学生ではなく教授スタッフなのかもしれません。ミュンヘン大学は登録学生数4万5千を数え、その意味でドイツの「学生相談室」に外国人留學生の相談は少ないと思

本学の「学生相談室」には外国人留學生の相談は少ないと思

学生相談室主催行事

初心者限定


「ホームページを作ろう」

ホームページはHTMLという言語で書かれています。ホームページ作成ソフトなどを使えばHTMLを知らなくても、簡単にホームページを作成することができます。しかし、原理がわからないと、その後の拡張などで困ることがあります。

そこで、本講習ではHTMLを使って原理を学びながら、ホームページの作成方法を学びます。非常に簡単な内容ですので、すでにホームページを自分で作成している人には物足りない内容です。また、ホームページに掲載する情報についての注意などについても学びます。

日時=2005年11月12日(土)10時30分~17時30分
場所=生田校舎理工学部6号館3階6308教室
募集=16名(先着順)※本学学部生・大学院生
参加費=1200円
※テキスト・昼食付き、懇親会あり
指導=井口幸洋・元相談員(理工学部助教授)ほか
申込=10月24日(月)12時~
※参加費持参のうえ、各地区学生相談室・各地区学生課・国際交流センター・各地区留学生談話室へ

◎いずれも問い合わせは、各地区学生相談室まで
(駿河台) 学生会館2階 TEL 03-3296-4217
(和泉) 第一校舎2階 TEL 03-5300-1178
(生田) 中央校舎2階 TEL 044-934-7619



明治大学博物館 2005年度特別展

「江戸時代の大名~日向国延岡藩内藤家文書の世界~」

譜代藩史料の白眉と謳われる「内藤家文書」と天下一能面などの宝物でつづる内藤家の歴史

伝内藤義概所用紫糸威二枚胴具足



2005年度の特別展では、三河時代から徳川家の武将として戦を重ね、ついには7万石の大名となった譜代大名内藤家を取り上げます。内藤家は延享4(1747)年に陸奥国磐城平から日向国延岡へ居城を移し、その地で幕末を迎えました。今回は、内藤家の歴史を記した内藤家文書(明治大学博物館蔵)と、天下一能面などの内藤家の大名道具(内藤記念館蔵)を組み合わせ、武士であり、治者であり、文化人であった江戸時代の大名の姿を描きます。金工・漆工・染織などの工芸技術を駆使した装飾性豊かな「伝内藤義概所用紫糸威二枚胴具足」など、展示される大名道具の多くが東京では初の披露となります。

特別展記念講演会「江戸時代の殿様生活」(10月15日)、特別展関連企画「知る・観る・能の世界」(10月16日)、博物館公開講座「江戸時代の大名一展示絵解で楽しむ譜代大名内藤家の歴史」(11月5日~12月10日の毎週土曜)、特別展関連企画「神楽~延岡市の伝統芸能に触れる~」(12月10日)といったイベントも同時開催いたします(申し込みが必要なイベントもありますので詳細は特別展ポスター・チラシ等でご確認ください)。

【会期】 2005年10月15日~12月11日 【会場】 明治大学博物館特別展示室
【料金】 300円 ※明治大学学生・教職員、リパティ・アカデミー会員、明大カード会員、博物館友の会会員、高校生以下、愛の手帳・身体障害者手帳をお持ちの方は身分証・手帳の提示で無料
【主催】 明治大学博物館 延岡市教育委員会

大学史の散歩道



大学史資料センター委員

山泉 進 (法学部 教授)

雄弁会と 大亦楠太郎



雄弁会時代の三木武夫の演説 [写真提供・共同通信社]

七月末に徳島県土成町(現・阿波市)の三木武夫生家を訪ねる機会があった。資料センターの仕事のひとつで、首相時代の写真類などの整理をかねてのことであった。一九二九(昭和四)年に専門部商科を卒業した、三木武夫の学生時代の連想でいえば、どうしても雄弁会での活動を思い起こさずにはいられない。その三木が自民党幹事長時代に書いた「思い出となる遊説」(『雄弁部名鑑』一九五七年)には、明治大学が始めた地方遊説についての思い出が記されている。三木の文章によると、組織的な地方遊説を始めたのは、三木の前のキャプテンであった長尾新九郎の時代からであったとのことであるが、今回の調査では、徳島市長を務めた長尾のお孫さんにあたる啓太郎氏宅にもおじゃまして、三木と同伴してアメリカ遊説に出かけた時の写真や日系新聞などの切り抜きなど貴重な資料も拝見することができた。

「雄弁」という語感には、私たちがからすればいかにも古臭い感じがつきまといっている。が、弁論の源流をアテネの民主制にさかのぼることができるように、もともと雄弁こそは、近代の民主政治を支える重要な技術であった。鉅毒問題や廃娼問題で熱弁をふるった島田三郎は、雄弁の必要条件是自由と多数であると言って、専制政治には雄弁は必要とされないと説いた(『雄弁』創刊号、一九一〇年)。「スピーチュ」の翻訳語として「演説」を考え、「デバート」の翻訳語として「討論」を考えたのは、福沢諭吉であるといわれているが、明治初年、まさしく文明として「演説」は輸入され、雄弁という説得の技術へとたかめられていった。自由民権や国会開設の主張は、多くの演説会をもたらし、また演説に関する数多くの出版物をうみだした。それに対する政府の反応もはやく、一八七八(明治一)年には、太政官より演説取締りの布達が出されている。

明治大学における雄弁部の歴史については、この『学園だより』(第二六四号)で渡辺隆喜教授が「駿河台議会和雄弁会」と題して触れているし、また雄弁部OB会長の山下英幸氏も「光輝ある伝統―雄弁部九八年のあゆみ」(季刊『明治』一三三号)で書かれている。ここでは、一九〇三(明治三六)年に結成された雄弁会の中核的人物であった大亦楠太郎について少し言及しておきたい。明治大学雄弁会が組織されたのは、明治三六年、明治大学と改称された直後のことで、岸本辰雄校長の有名な演説「明治大学の主張」が掲載された同じ『明治法学』(一九〇三年十一月)の雑録欄に、「雄弁会の組織」として紹介されている。それによると、「本学専門科各学年生」と「高等予科生」の有志の発起で雄弁会が組織され、顧問に岸本校長、会長に鶴沢聡明、幹事に大亦楠太郎ら八名が選ばれたということである。そして、一〇月一八日に第一回の会が開かれたということであるから、おそらくこの日を発会式と考えてよからう。そして、この日発起人を代表して登壇、「雄弁会創立の趣旨」と題した演説を行なったのが大亦楠太郎であった。また、この日のことは『和歌山学生会雑誌』(第四四号)にも記載されていて、当日の本学大講堂への来聴者が六百人余りであったことがわかる。

大亦という名字は珍しいが、いまでも和歌山市の北郊、紀ノ川を渡った直川という地域に集中して残っている。一八七八年、地方屈指の資産家の商人末裔として生まれた楠太郎の明治法律学校への入学は一九〇一年九月、二三歳の時

で一九〇四年七月に卒業している。雄弁会結成の動機となったものが、足尾鉅毒事件にあったことは意外に知られていない。一九〇一年二月田中正造による直訴事件があり、年末には都下の学生一千名余りが修学旅行の名目で、鉅毒被害地視察に出かけた。帰京後、学生たちは神田の基督教青年会館で報告演説会を開催、「学生鉅毒救済会」を結成して、万世橋、日比谷公園、上野公園などで路傍演説を行い鉅毒地の悲惨さを訴えた。大亦自身が路傍演説の先頭にたったことは、東京都公文書館に所蔵されている報告書に記載されている。もちろん、当局からは大学に対して運動を規制するように強い要請があった。

その後の大亦楠太郎が、日露戦争に反対して非戦論を唱えた平民社とかかわりをもち、帰郷後は『紀陽新聞』を創刊したりしているが、結婚をすることもなく一九一四年に病死したと伝えられている。

宇都宮徳馬賞(大学生・高校生対象)のご案内 ～懸賞論文募集のお知らせ～

明治大学特定課題研究所「明治大学軍縮平和研究所」の企画である『宇都宮徳馬賞』の趣旨「軍縮・平和の分野における理解を深め、この分野の運動に資する理論的發展を促進すること」を目的とします。

- テーマ：軍縮、民族紛争の解決などの問題を中心として、広く国際社会における平和と安全の維持・発展を目的とするテーマを設定すること。
- 応募資格：(大学生の部) 19歳以上24歳以下 (高校生の部) 15歳以上18歳以下
- 締切日：2005年12月15日当日消印有効
- 入賞発表：2006年3月、入賞者に通知するとともに、当研究所ホームページおよび季刊『軍縮地球市民』誌上で発表します。
- 賞金および賞品：大学生の部および高校生の部にそれぞれ最優秀賞1本(賞金20万円) 優秀賞2本(賞金10万円) 奨励賞5本(記念品)
※入選論文の著作権は、明治大学軍縮平和研究所に帰属します。
- 提出先：明治大学軍縮平和研究所「宇都宮徳馬賞応募係」 〒101-8301 東京都千代田区神田駿河台1-1 E-mail=kenshou@gunsyuku.org
- 問合せ先：電話=03-5875-0850 FAX=03-3239-8146 E-mail=toiawase@gunsyuku.org

明治大学軍縮平和研究所ホームページ
<http://www.gunsyuku.org/>

先輩の経験を聞いて就職への視野を

文学部が進路選択支援講座を開催

文学部では、マスコミ・教員など文学部学生が志向する特定分野以外の進路先について、学生の先入観を排し、視野を広げることを目的として、「進路選択支援講座」を開催している。この講座は、卒業後5年程度の卒業生を招き、講演、座談会、質疑応答を交えて、働くことの意義や就職活動の経験、学生時代に学んだことと現実の社会との関連性など、貴重な体験談を直接聞くことができる絶好の機会だ。

「将来を考えるきっかけに」 進路選択支援講座に参加して

文学部3年 伊東 真実

「秋になったら就活が始まるから、夏のうちにいっぱい遊んでおこうね」。きっかけは友達のおこな一言でした。テストを半分終えて夏休みモードに入り始めていた私は、ウキウキ気分だったのが一気に消え、急に憂鬱になってしまいました。私は身近に「就職活動」の経験を聞ける人がいなかったの

で、実際に何をしたらよいかかわからないし、その上、自分が何の仕事に就きたいかもじっくり考えたことがなく、不安でいっぱいでした。まずは、他の人の体験談を聞きたい。そう思っていた時に文



▶卒業生が自らの体験を語る

学部の掲示板で進路選択支援講座が行われるのを見つけ、7月22日の第2回に参加しました。特に私が一番注目していたのは、3人の先輩方の中で唯一の女性であった山中恵美子さん(横浜ベイシエラトンホテル& Towers勤務)。ホテルで働いているということ、観光関係に興味を持っている私には、一番聞きたい体験談を直接聞けるチャンスでした。山中さんはホテルに滞在する海外のお客様のトラブルをどのように対処してきたのか、などを話してくださいました。「見返りを求めて働いてはいけないけれど、お客様のために働いて、それに対してお礼を言ってもらえたときはすごく嬉しい、この仕事をやっていて良かったと思う」と言っていた山中さんの目は輝いていました。山中さんの話の中でも特に参考になったことは、どうやって今のホテルを就職先として決めたのかということでした。

「自分で実際に色々なホテルに行ってみて、泊まりはしないけれど、ホテルの喫茶店からどんな風に従業員が働いているのか、ホテルの雰囲気を観察しました」と聞いた

時、その行動力こそが、「この仕事に就いて良かった」と思える秘訣なのではないかと思いました。私も興味のある業種はできるだけ多く自分の足で見て、説明会に参加しようと思います。

他の二人の先輩方は、教員と公務員だったので、自分には特別関係は無いだろうと思っていました。が、お二人とも資格浪人したことを話されて、「やっぱり、勉強を始めるのが遅かったと思っ



競走部、2年連続の“箱根”へ

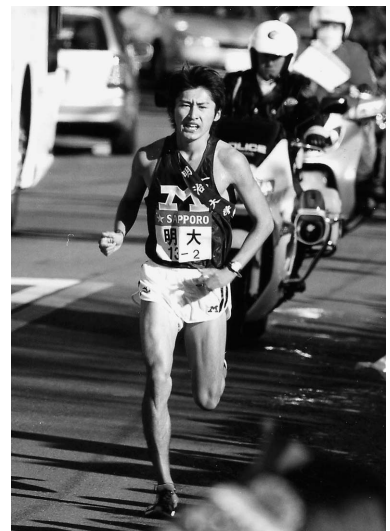
第82回東京箱根間往復大学駅伝競走予選会

日時 10月22日(土) 8:30スタート
場所 国営昭和記念公園 (立川市)
距離 20km 出場枠 9校

◎選考方法

各校上位10名(出場12名中)の合計タイムにより6校を選び、残る3校は第84回関東学生対校選手権(関東インカレ)の成績などをタイムに換算して、予選会の合計タイムから差し引いて順位を決める。

幸田高明主将(政経4)「今年は箱根駅伝で活躍することを目標に取り組んできました。チーム力も昨年より強化され、箱根駅伝予選会はトップ通過を目指しています。明大生のみなさん楽しんでもらえる走りを楽しみたいと思いますので、応援よろしくをお願いします」



エース区間の2区を走る幸田主将
(第81回箱根駅伝)



明大ニュース

アイビールックの仕掛け人 故石津謙介に特別功労賞を贈呈

シンポジウム・演奏会を開催

明治大学は6月26日、服飾ブランド「VAN」の創業者で服飾デザイナーの故石津謙介氏(2005年5月24日逝去、1932年商



卒「写真」に明治大学特別功労賞を贈呈した。石津氏の同賞受賞について「石津謙介氏は、「私と弟は父に憧れて明大に入学しただけに、この受賞を大変うれしく思う」と話し、「親父の遺影にこのメダルを掛けて、もう一度写真を取り直したい」と喜びを語った。

贈呈式に引き続き、石津氏ゆかりの関係者によるシンポジウム、アメリカ・ハーバード大の男声コーラスグループ「クロコデイロス」と明大グリーククラブとの合同演奏会が行われ、アイビールの時代を作った石津氏へのオマージュとその時代に歌を捧げ、400名が故人を偲んだ。

は今年の北野武氏(タレント、映画監督)に続き23人目。



贈呈式では、石津氏長男・石津祥介氏(石津事務所代表)に特別功労賞の賞状と記念のメダルが贈られた。挨拶に立った納谷廣美学長は、「石津氏は60年代の若者のファッションにとどまらず、ライフスタイルや思想にまで大きな影響を与えた。その石津氏に特別功労賞を贈呈することは、大学の喜びであり誇りである」と述べた。

目指したこのプロジェクトは、出演者もとより、演出・制作・音響から宣伝や当日の受付に至るまで学生が主体となっており、明大OBで法学部特別招聘教授の俳優・原田大二郎氏らが協力。観覧希望者殺到により急遽追加公演を実施するなど、3回の公演で2000人を超える観客を動員した。

役者、裏方約70名全員が学部・学年の枠を越えて一丸となって作り上げた完成度の高い舞台に、満場の観客席からは大きな拍手が送られた。

戦後初・水泳部がインカレで3位

9月2日から4日に大阪で開催された第81回日本学生選手権水泳競技大会で、明大水泳部が戦後初の快挙となる男子総合3位に入賞した。

個人でも佐野秀匡(法3)がメドレーで2冠(200・400m)で、伊藤真(商2)が50m自由形で優勝した。

この夏、明大水泳部は世界を舞台に大活躍した。7月にカナダ・モントリオールで開催された世界



水泳2005では、佐野が200mと400mの個人メドレー2種目に出場し、それぞれ5位・6位と健闘。400mフリースタイルに臨んだ伊藤は、決勝進出はならなかったものの、見事日本新記録の樹立に貢献した。

また8月には、トルコ・イズミールでユニバーシアード競技大会が行われ、佐野・伊藤に加え水田岳彦(政経4)が出場。世界水泳直後でベストコンディションではな

い中、佐野が400m個人メドレーで銅メダルを獲得。200mでも4位となった。伊藤は400mフリースタイルで8位入賞、水田は50m平泳ぎに出場したが、決勝進出はならなかった。

立里・守澤ペアが マディソン競技で優勝

第46回全日本学生選手権自転車競技大会が7月30・31日、長野県松本市で開催され、マディソン競技で明大自転車部の立里匡道(経営2)・写真左・守澤太志(商2)写真右)ペアが優勝した。

マディソン競技はペアのチームスプリントで1周333・33mのバンクを160周回、総距離53・

2005 東京六大学野球秋季リーグ戦 (10月12日現在、勝ち点1)

| | | | |
|-------|----------|-----|-----|
| (第1週) | 9/10 慶大 | 5-7 | ○明大 |
| | 9/11 明大 | 3-1 | ●慶大 |
| (第2週) | 9/17 明大 | 9-4 | ○法大 |
| | 9/18 法大 | 8-5 | ●明大 |
| | 9/19 明大 | 7-9 | ●法大 |
| (第4週) | 10/1 早大 | 5-0 | ●明大 |
| | 10/2 明大 | 7-5 | ○早大 |
| | 10/3 早大 | 3-1 | ●明大 |
| (第5週) | 10/8 立大 | 3-9 | ○明大 |
| | 10/11 明大 | 2-3 | ●立大 |
| | 10/12 立大 | 4-3 | ●明大 |
| (第7週) | 10/22 東大 | - | 明大 |
| | 10/23 明大 | - | 東大 |

開幕3連勝 ラグビー対抗戦

9月17日に開幕した関東大学ラグビー対抗戦。今春のリーグ戦で5位に終わった明大は、春の優勝校・慶大との開幕カードに連勝、法大1回戦にも勝って開幕3連勝を飾ったが、その後法大に連敗。続く早大戦も3回戦まで持ち込んだが勝ち点を落とし、優勝争いから後退した。

優勝争いから一歩後退

東京六大学野球

「明大柔道」が大活躍

世界柔道 全日本ジュニア柔道

第24回世界柔道選手権が9月8日から11日にエジプト・カイロで開催され、男子90kg級でアテネ五輪銀メダリストの泉浩(旭化成)05年経営卒)が悲願の金メダルを獲得。前回大会の金メダリストで100kg超級の棟田康幸(警視庁)03年法卒)は銀メダルに終わった。また、第37回全日本ジュニア柔道体重別選手権(9月18日・埼玉県立武道館)では、鈴木雅典(商1)が60kg級、山本宜秀(政経1)が100kg級を制した。

2005関東大学ラグビー対抗戦

| 月 | 日 | スコア | 対戦相手 | 時間 | 会場 |
|----|----|--------|------|---------|-----|
| 9 | 25 | ○24-16 | 日体大 | (14:00) | 熊谷 |
| 10 | 2 | ○47-17 | 筑波大 | (14:00) | 日立 |
| 10 | 9 | ○68-34 | 青学大 | (14:00) | 松本 |
| 11 | 3 | | 慶大 | (14:00) | 秩父宮 |
| 11 | 13 | | 立大 | (14:00) | 秩父宮 |
| 11 | 19 | | 帝京大 | (14:00) | 秩父宮 |
| 12 | 4 | | 早大 | (14:00) | 国立 |

明治大学特別功労賞贈呈式 記念イベント

映画界の異才・岡本喜八

特別展示

「映画界の異才・ 岡本喜八の人生」

- ▼リパティタワー23階
岸本辰雄記念ホール
(10月21日～11月4日)
- ▼リパティタワー1階
松井康成ホール
(10月24日～10月29日)

「絵コンテ」「映画ポスター」「撮影に
使用した小道具・衣装」など、大変貴重な
関係資料を展示します。



岡本喜八にささげる

山下洋輔コンサート



岡本 喜八 (おかもと・きはち)

映画監督。1924年鳥取県米子市生まれ。43年明治大学専門部商科卒業。演出助手係として東宝に入社するが、翌年徴兵され陸軍へ。復員後、助監督として、谷口千吉、成瀬巳喜男、マキノ雅弘らにつく。「結婚のすべて」(58年)で監督デビュー。戦時中や戦後の人々を描いた作品を世に送り出す。その後、「暗黒街」シリーズや「独立愚連隊」シリーズが大ヒットし、人気監督となる。70年代後半からは「ダイナマイトどんどん」(78年)、「ジャズ大名」(86年)、「大誘拐 RAINBOW KIDS」(91年)「助太刀屋助六」(02年)など娯楽作品を発表。89年紫綬褒章、95年勲四等旭日小綬章受章。05年2月逝去。同年、明治大学特別功労賞受賞。

主な受賞歴

「日本のいちばん長い日」(67) 芸術祭文部大臣賞
「肉弾」(68) 芸術祭文部大臣賞、毎日映画コンクール監督賞
「大誘拐 RAINBOW KIDS」(91) 日本アカデミー賞最優秀監督賞

2005年10月25日(火) 明治大学アカデミーホール 14:00 開演 (13:00 開場) 入場無料 (先着順)

- 【第一部】 14:00～14:30 特別功労賞贈呈式＝岡本みね子(映画プロデューサー・岡本喜八夫人)
- 【第二部】 14:35～15:00 記念講演＝「岡本喜八と日本映画」寺脇 研(文化庁文化部長・映画評論家)
15:00～15:30 シンポジウム＝「映画監督・岡本喜八の魅力」本田博太郎(俳優)ほか
- 【第三部】 16:00～17:00 山下洋輔コンサート＝「岡本喜八映画の音楽」
〈演奏〉山下洋輔スペシャル・ユニット
〈演奏曲〉「助太刀屋助六」メイン・テーマ／「ジャズ大名」ほか、
サプライズな未発表曲を予定
- 【第四部】 17:15～18:40 映画上映会＝「ジャズ大名」(1986年作品)

主催：明治大学 共催：明治大学校友会・明治大学連合父母会・連合駿台会
企画：喜八プロダクション 後援：鳥取県

問い合わせ 明治大学広報部 TEL: 03-3296-4082